

収録絵柄一覧

色とりどりの着物をまとった艶やかな女性たちが描かれています。
指の先まで凛とした美しい姿にさまざまな想像が膨んでくるようです。
原画の絵は日本画ですが、好きな画材を使って好きな色で彩色を楽しみ、
オリジナルの美しい絵に仕上げてください。
塗り絵の部分は、塗りやすい画用紙を使用していますので、
ミシン目から切り取ってそのまま使うことができます。

No.1 夢桜 ゆめざくら



No.2 娘道成寺 むすめどうじょうじ



No.3 菖蒲 あやめ



No.7 芍薬



No.8 蝶の舞



No.9 粹雅 すいが



No.4 藤娘



No.5 琴乃 こと乃



No.6 宵桜 よいざくら



No.10 千秋 ちあき



No.11 絢 あや



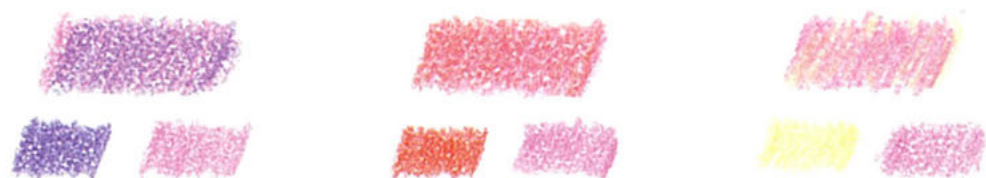
塗り絵は、
切り取って
すぐに使える
ミシン目入り

色鉛筆で細やかに塗る

ピンクの着物姿の美しい女性は、見事に咲き誇る桜の花に囲まれています。着物、桜、背景とピンクづくしですが、それぞれ色味に変化をつけると、より華やかで見応えのある絵になります。少しずつ丁寧に塗り進め、色づくりを楽しんでください。

◆ ピンクの色味に変化をつける

同じピンクでも下に塗り重ねる色を変えることで、色味に変化がつけます。濃淡によっても微妙な色合いの違いが表現できます。



No.1「夢桜」彩色見本

色鉛筆ミニレッスン

1 肌や髪は、複数の色を塗り重ねて表現する



肌は、薄だいたい、桃色、薄紫などを塗り重ねます。



唇、目や眉などはよく尖った色鉛筆で塗ります。

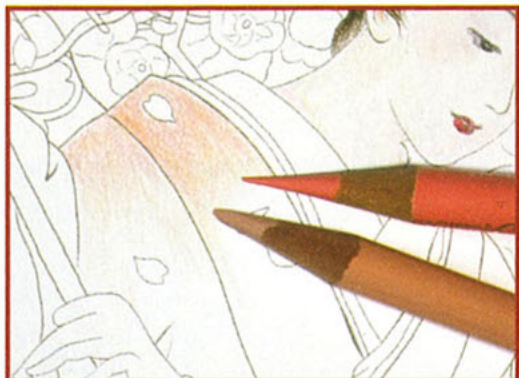


髪は、焦茶、藍、赤、深緑などを下塗りし、黒を塗り重ねます。



髪飾りの細かな部分も、それぞれ丁寧に塗りましょう。

2 着物は陰影をきちんと塗り、細かい柄を丁寧に塗る



着物は、薄だいたいや桃色などで塗ります。



白い半襟もクリーム色などで薄く塗りましょう。



細かいところですが、肌でできる陰影も忘れずに塗ります。



帯はそれぞれの模様を塗っていきます。

3 傘や背景の桜は、周囲とのバランスを見ながら調整して塗る



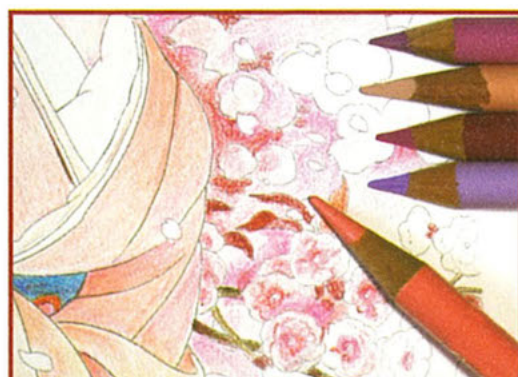
お手本をよく見ながら、傘の下の着物も同じように塗っていきます。



ピンクや紫で傘を塗ります。透ける部分はバランスを見て塗り足してもいいでしょう。



背景の桜は、枝や葉、花の中心など濃いところを先に塗ります。



桜の花は、薄紫、薄だいたいなどを下塗りし、ピンクや赤紫などを塗り重ねます。



No.1 ゆめざくら 夢桜

一陣の風もてあそに弄ばれるように八重桜の花弁が空を舞う。紫の日傘を傾け花びらを受けつつ、いっとき佇む町娘。春たけなわの季節と相まったピンクの着物には折り鶴の柄が施されている。若々しく清純な乙女の絵である。



No.2 ひすめどうじょう 娘道成寺

日本人には馴染みの深い「安珍、清姫」。物語は情熱と喜びから怨念へと移り変わるが、歌舞伎化されると暗いイメージは払拭されて、ただただ豪華になっていく。これは歓喜に満ち溢れた花子の艶やかな舞のシーンである。鼓、鞆鼓、手拭いの踊りと変化に富んだ場面が続く。

